

【秀逸】

厚着して冷や汗をかくマニフェスト

松原 幸子

民主党を支持した有権者も、あの盛り沢山のマニフェストすべてが実現されると信じたわけではあるまいが、厚着し過ぎて身動き出来なくなっているくらいも、森繁の芸の軽さと死の重さ

藤井 蚩舟

「名優」といつくだけで括弧してしまえない芸能界の巨人が逝った。あの洒落な柔藝師と共に一時代を歩み続けたベネソスの重さを、その死によって気づかされたF1を去るトヨタ車の砂煙

山口 早苗

いかなるスピードも柔冠も、不況に勝てない。昨年からの世界を覆った経済危機ト、スタートラインを去るトヨタ車の砂煙。これはF1への最後の重土産である。

多吟投句はどかく数に寄りかかって、一句一句の推

敲が疎かになる傾向がないとはいえない。同一テーマの角度を変えて試みる場目別だが、用語を変えた程度の多数心算は、その前に作者自身の検査が望ましい。

今回は、政権交代後の攻防が中心。それに森繁久弥と二遊章内業、南田洋子の死、顔面整形後に逮捕されたりンゼイさん死体遺棄犯人など、政治、社会面とモテーマに事欠かなかったが、全体として内容がにぎやかなほうには突出した作風が見られなかった。

【佳作】

知床に雪を降らせて旅に出る 山口 早苗

新型が流行り新刑売れ残る 同

婚活の足練炭に冷やされる 同

駅前を淋しくさせて先に逝き 同

ピクターへ首を傾げている子犬 同

笑点が昇天になる秋の暮 島崎 肇

イチローで明けて秀喜で締め括り 同

整形で尻尾を出した殺人鬼 同

裏山を更地に戻す仕分け人	島崎穂花
支持率へ貧困率の殴りこみ	同
医師会が民主に当てる聴診器	同
整形でつぶす己と親の顔	同
仕分け人解体をする仕掛け人	鈴木寿子
認知症演じて了える大女優	同
五代目が古典に沈む神無月	同
先付の疑問符が付く平和賞	佐々木福太郎
大関の介錯人が見当たらず	同
手土産のないアメリカの腹の底	同
対等な話の先の落とし穴	同
二か月で仕分けをされるマニフェスト	藤井蛭舟
炊き出しの列には居ないJALの人	同
敗戦のショック自民に地割れくる	久保昭二
ヤ行でもヤとヨの違い知らされる	同
あれは国会あれも国会あれが国会	富田恭行
容疑者の鼻より高い通報者	石井正俊
無党派も医者も見放す自民党	二宮茂男

ベルリンの壁に暮しの壁が出来	松永昇児
本当の壊し屋が居る民主党	小林寿寿夢
平和賞平和な国じゃ貰えない	佐藤隆貴
マニフェスト陸海空を掻き回す	川村雄一
答は出ているのに普天間の禅問答	普川素床
原発を見切り発車で解体す	三浦哲夫
座布団を残し円楽星の座へ	足立俊夫
幻覚の海を彷徨つ清纯派	塩見佳代
育成がドラフト会議突き上げる	吉川一男
鳩一羽迷いがちなるダムの上	小河柳女
マニフェスト基地とダムとにある格差	田口立吉
雌伏九年息吹き返す旧石器	三千尾維大
シベリヤの癒えない傷を抱く卒寿	佐藤ヒサ
圧勝の熱が冷めてく無いものねだり	加藤久子
民主党世界を視野に躍り出る	益子善三郎

*

前回秀逸「チルドレン去って新たなチルドレン」の作者は二宮茂男（横浜）さん